



2023年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年1月13日

上場会社名 リックソフト株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4429 URL <https://www.ricksoft.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 大貫 浩
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 加藤 真理 (TEL) 03-6262-3947
 四半期報告書提出予定日 2023年1月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年2月期第3四半期の連結業績(2022年3月1日~2022年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年2月期第3四半期	3,946	30.7	386	40.6	404	42.4	298	49.1
2022年2月期第3四半期	3,019	6.3	275	△24.7	284	△21.8	200	△25.0

(注) 包括利益 2023年2月期第3四半期 311百万円(53.0%) 2022年2月期第3四半期 203百万円(△23.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年2月期第3四半期	66.54	65.91
2022年2月期第3四半期	45.81	44.16

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年2月期第3四半期	3,912	2,346	60.0
2022年2月期	2,932	2,255	76.9

(参考) 自己資本 2023年2月期第3四半期 2,346百万円 2022年2月期 2,255百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年2月期	—	0.00	—	—	—
2023年2月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年2月期の連結業績予想(2022年3月1日~2023年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,001	16.1	451	3.1	451	0.2	308	△5.6	69.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P.9「(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年2月期3Q	4,506,200株	2022年2月期	4,446,900株
② 期末自己株式数	2023年2月期3Q	142株	2022年2月期	132株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年2月期3Q	4,482,190株	2022年2月期3Q	4,367,536株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料における予想値及び将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は将来予測に関するいかなる内容についてもその確実性を保証するものではありません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	9
(収益認識関係)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、経済活動の正常化を背景に内需が堅調に推移しました。この結果、2022年7～9月期のGDP改定値は、物価高に伴い個人消費が下振れしたものの、企業の在庫積み増しが押し上げ要因となり、物価変動の影響を除いた実質の季節調整値で前期比0.2%減、年率0.8%減となりました。

他方、海外に目を向けると、世界経済の失速が懸念されています。米国では失業率の上昇と物価の高止まりによる個人消費の減速、高金利政策の継続により先行き不透明感が一層深刻になりつつあります。このため、引き続き金融資本市場の変動等の影響を注意深く見守る必要があります。

当社グループが属する情報サービス分野におきましては、企業価値や競争力向上のための「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」推進の流れが加速しており、政府によるデジタル庁設立も相まって、IoT、クラウド、RPA（Robotic Process Automation、ロボットによる業務の自動化）、FinTechなどの先端技術を活用したIT投資の需要が引き続き堅調に推移しました。

このような状況の中で当社グループは、顧客ニーズや企業意識の変化による、問題や不安の解決に対して製品やサービスの可能性を新たな形にし、発信してまいりました。これらの利用状況は、順調に推移しております。

<製品・サービスについて>

- ・日本国内におけるアトラシアン製品の利用促進を目指しAtlassian Marketplace Partnerに参入（2022年10月）
- ・アジャイルでのプロジェクト管理ツール「Jira Software Cloud」のアプリ「Project Success Rate Forecast（プロジェクト成功率予測） powered by PROEVER」を開発し、Atlassian Marketplace上に掲載（2022年10月）
- ・アトラシアン社のCloud Specialization認定を取得（2022年11月）

また、社内においてもDXの推進、働き方改革の実施により、さらなる生産性の向上、コストダウン等を目指し、情勢に順応した社内改革を推し進めております。この取り組みが評価され、2021年10月に経済産業省が定める「DX認定業者」に認定されました。今後も全役職員が一丸となり、既存顧客の深耕と新規顧客の獲得による受注拡大に加えDXの推進を図ってまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は、売上高3,946,986千円（前年同期比30.7%増）、営業利益386,725千円（前年同期比40.6%増）、経常利益404,903千円（前年同期比42.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益298,256千円（前年同期比49.1%増）となりました。

なお、当社グループは「ツールソリューション事業」の単一セグメントであるため、セグメント毎の記載をしておりません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ980,570千円増加し、3,912,799千円（前連結会計年度比33.4%増）となりました。主な要因は、現金及び預金が474,516千円、前払費用が収益認識会計基準等の適用により520,810千円増加したことによります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ888,979千円増加し、1,566,013千円（前連結会計年度比131.3%増）となりました。主な要因は、収益認識会計基準等の適用により契約負債が1,094,262千円増加及び前受金が168,923千円減少したことによります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ91,591千円増加し、2,346,785千円（前連結会計年度比4.1%増）となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が298,256千円、円安の影響で為替換算調整勘定が12,931千円、ストックオプションの行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ7,415千円増加した一方で、収益認識会計基準等の適用により利益剰余金の期首残高が234,403千円減少したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年2月期の業績につきましては、2022年4月14日に公表いたしました業績予想に変更はありません。今後、業績予想の修正の必要性が生じた場合は、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,088,910	2,563,427
売掛金	563,618	-
売掛金及び契約資産	-	482,902
仕掛品	26,848	39,754
前払費用	24,024	544,835
その他	48,553	47,863
流動資産合計	2,751,955	3,678,783
固定資産		
有形固定資産	91,859	87,486
無形固定資産	10,197	23,265
投資その他の資産	78,216	123,264
固定資産合計	180,273	234,016
資産合計	2,932,229	3,912,799

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	316,919	271,476
未払法人税等	41,392	19,234
契約負債	-	1,094,262
前受金	168,923	-
賞与引当金	51,728	29,574
受注損失引当金	2,594	2,560
その他	64,434	117,792
流動負債合計	645,993	1,534,899
固定負債		
資産除去債務	31,041	31,113
固定負債合計	31,041	31,113
負債合計	677,034	1,566,013
純資産の部		
株主資本		
資本金	337,501	344,917
資本剰余金	372,501	379,917
利益剰余金	1,543,096	1,606,949
自己株式	△541	△559
株主資本合計	2,252,558	2,331,223
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	2,625	15,557
その他の包括利益累計額合計	2,625	15,557
新株予約権	10	4
純資産合計	2,255,194	2,346,785
負債純資産合計	2,932,229	3,912,799

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
売上高	3,019,387	3,946,986
売上原価	1,926,924	2,580,642
売上総利益	1,092,463	1,366,343
販売費及び一般管理費	817,434	979,618
営業利益	275,029	386,725
営業外収益		
受取利息	2	1
為替差益	4,041	6,571
販売奨励金	3,701	10,159
助成金収入	1,334	1,624
その他	256	341
営業外収益合計	9,337	18,697
営業外費用		
支払利息	-	361
株式交付費	111	158
営業外費用合計	111	519
経常利益	284,255	404,903
税金等調整前四半期純利益	284,255	404,903
法人税、住民税及び事業税	80,142	45,289
法人税等調整額	4,037	61,357
法人税等合計	84,180	106,646
四半期純利益	200,075	298,256
親会社株主に帰属する四半期純利益	200,075	298,256

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
四半期純利益	200,075	298,256
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	3,342	12,931
その他の包括利益合計	3,342	12,931
四半期包括利益	203,417	311,188
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	203,417	311,188

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、一部の取引について、納品時に収益を認識しておりましたが、一定の期間にわたり充足される履行義務については、収益を一定の期間にわたり認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の期首残高が234,403千円減少しております。

また、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上高が396,276千円、売上原価が329,362千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ66,914千円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「売掛金及び契約資産」に含めて表示し、「流動負債」に表示していた「前受金」は、第1四半期連結会計期間より「契約負債」に含めて表示することとしました。

なお、収益認識会計基準89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替を行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
一時点で移転される財又はサービス	2,623,496
一定期間にわたり移転される財又はサービス	1,323,489
顧客との契約から生じる収益	3,946,986
外部顧客への売上高	3,946,986